産黨宣言

決定版

共產黨宣言

マルクス、エンゲルス著
堺利彥、幸德秋水譯

彰考書院

マルクス、エンゲルス共著
堺　利彦、幸徳秋水共譯

共産黨宣言

彰考書院刊行

日本譯の序

この日本譯は、最初、第三章を除いて、週刊『平民新聞』第五十三號（明治三十七年十一月十三日發行）に載せられたところ、忽ち秩序壞亂として起訴され、裁判の結果、關係者はそれぞれ罰金に處せられた。しかしその裁判の判決文には、『古の文書はいかにその記載事項が不穩の文字なりとするも、……單に歷史上の事實とし、または學術研究の資料として新聞雜誌に掲載するは、……社會の秩序を壞亂するといふ能はざるのみならず、むしろ正當なる行爲といふべし』とあつた。そこで私は次にその譯文に多少の修正を加へ、および第三章を譯し添へて、今度は『單に歷史上の事實』として、また『學術研究の資料』として、『社會主義研究』第一號（明治三十九年三月十五日發行）に載せた。（その時には、前の共

譯者幸德はアメリカに行つてゐたので、第三章は私ひとりで譯した）。

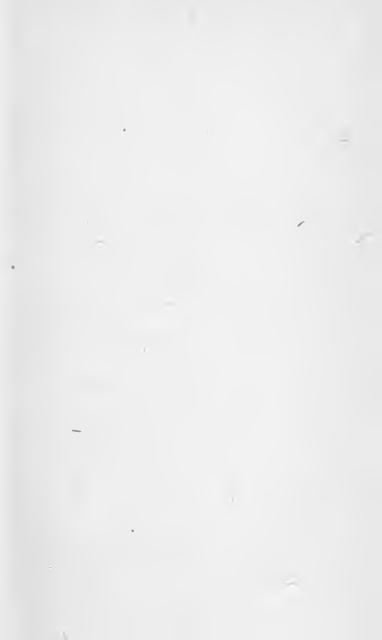
しかるに、その『社會主義研究』も程へて後（大逆事件當時）發賣を禁止され、その後今日に至るまで、『共產黨宣言』日本譯の公刊は不可能の狀態になつてゐるが、いかに日本が野蠻國で、いかに保守的反動が强いにしても、もう遠からずして、言論自由の範圍が、せめて明治三十九年當時くらゐに復舊する時節は來るだらうと思はれる。その時には、私はぜひともこの『學術研究の資料』を出來るだけ早く世に出したいと思つてゐる。ところが、近ごろその古い譯文を讀み返してみると、第一、文體の古くさいことが厭で堪らない。それにあの時は、單にイギリス譯から重譯したのでもあり、また譯し方の拙いところや、不正確なところや、間違つたところも大ぶんある。そこで私は今度、その古い譯文をドイツ語の原文と引合せ、また部分的には河上肇氏および櫛田民藏氏の譯文をも參照し、出來るだけ精密に訂正を加へて、口語體に書き直すことにし

た。幸德が生きてゐたら何といふか知らんが、私はやはりこの新譯に彼と二人の名を署しておく。

ドイツ語の新版には、一八七二年のマルクス、エンゲルスの序文のほか、一八八三年のと一八九〇年のと、エンゲルスの序文が二つ載つてゐる。しかしその內容は次に記したイギリス譯の序に盡されてゐる。

大正十年五月

堺　利　彥

（日本では、その後、この私の譯文が何人かの手により、祕密出版として數回發行された。また昨年、大田黑年男氏らの手によつて、「共產黨宣言」と題する四百ページの大冊が發行され、禁止にはなつたが、それ以前、少からぬ部數が頒布された。この大冊には『宣言』の本文のほか、リヤザノフの『共產主義者同盟』の歷史と、同じくリヤザノフの、二百ページ以上にわたる『評註』と、エンゲルスの『共產主義の原理』——實は『宣言』の草案——等が附錄されてゐる。一九三〇年七月追記。堺）

イギリス譯の序

この『宣言』は、『共産主義同盟』の綱領として發表されたものである。『同盟』は勞働者の團體で、初めはドイツ人に限られ、後、國際的となり、一八四八年以前のヨーロッパ大陸の政治狀態の下において、やむなく祕密結社であつた。一八四七年十一月、ロンドンに開かれた『同盟』の大會において、理論上および實踐上の、完備した綱領を發表するため、マルクスとエンゲルスとが起草委員に選ばれた。一八四八年一月、その草稿はまづドイツ文で起草され、二月二十四日のフランス革命の數週前、ロンドンの活版所に送られた。そして一八四八年六月の一揆のすぐ前に、そのフランス譯がパリにあらはれ、一八五〇年、ヘレン・マクファーレン孃の手になつた第一英譯が、ロンドンの雜誌『レ

ッド・レパブリカン』に現はれた。オランダ譯とポーランド譯もまた次いで刊行された。

プロレタリヤとブルジョアとの最初の大合戰たる、一八四八年六月のパリ一揆が敗北した時、ヨーロッパ勞働階級の社會的および政治的活動は、また暫く後方に押しこまれてしまつた。その後、權勢の爭奪は、二月革命以前とおなじく、また有產階級の諸黨派の間にのみ行はれ、勞働階級は僅かに政治的自由のために戰ふこととなり、中流階級急進派の左翼たる地位に引下げられた。そして獨立のプロレタリヤ運動がなほ多少の生氣を示してゐるところでは、容赦もなく叩き伏せられてしまつた。かくてプロシャの警察は、當時ケルンにおかれてあつた『共產主義同盟』の本部を搜し出した。それで、本部員はみな捕縛され、十八箇月の監禁の後、一八五二年十月、初めて公判に付された。この有名な『ケルン共產黨裁判』は、十月四日から十一月十二日まで繼續し、被告のう

ち、七名は三年から六年まで、それぞれの刑期をもつてある要塞に禁錮する旨を宣告された。この宣告の後まもなく、「同盟」は殘餘の黨員によつて形式的に解散された。從つて『宣言』もそれきり埋沒されたもののごとくであつた。

ヨーロッパの勞働階級が、更にその權力階級に向つて一擊を加ふべき十分の銳氣を回復した時、かの「國際勞働者同盟（インタナショナル）」が勃興した。けれどもこの「同盟」は、もつぱら歐米全體の戰鬪的プロレタリヤを打つて一丸とする目的であつたので、「共產黨宣言」に揭げられた趣旨をとつて、直ちにそれを標榜するわけには行かなかつた。すなはちこの同盟は、イギリスの勞働組合、フランス、ベルギー、イタリー、スペインにおけるプルードン派、およびドイツにおけるラサール派(1)に容認さるべき、漠然たる綱領をもつものでなければならなかつた。マルクスはその綱領を起草して右の諸黨派に滿足を與へたが、彼としては全く、この協同の運動と、相互の討究とから必ず生ずべきはずであるところの、勞働

階級の智力的發展に信賴してゐたのであつた。資本に對する戰鬪の事實、およびその戰況の變遷は、殊に敗戰の場合においては勝利の場合よりも甚だしく、種々なる家傳祕法の不十分が感知され、從つてまた、勞働階級解放の眞正の條件について、一そう深奥なる見解に到達させないではおかないはずである。マルクスの見るところはまさに當つてゐた。一八七四年、『インタナシヨナル』が解散した時、それを創立當時の一八六四年に比べると、勞働者はまるで別人のやうになつてゐた。フランスのプルードン派、ドイツのラサール派はみな既に死滅に瀕し、保守的なイギリスの勞働組合も（その大部分は疾くにインタナシヨナルと分離してはゐたが）、なほよく漸次にその歩みを進め、去年スワンシーでその會長が、組合の名において、『大陸の社會主義ももはや我々に恐怖を感ぜしめぬ』といつたほどになつて來た。すなはち實際上、『宣言』の趣旨は著るしく各國勞働者の間に侵入してゐたのであつた。

(1) ラサールは個人として我々に對する時には、常にマルクスの弟子たることを承認し、從つてまた『宣言』の論據の上に立つてゐた。しかし一八六〇年から六四年までの公の運動においては、彼は、國家の保護を受ける組合工場の要求以上に進まなかつた。

かくて『宣言』そのものも再び表面に現はれた。ドイツの原文は一八五〇年以後、スヰス、イギリス、およびアメリカで幾度も飜刻され、一八七二年にはニューヨークで英文に譯されて、『ウードハル・エンド・クラフリン週報』に掲載され、そのイギリス譯からして同地の佛文雜誌『社會主義者』にフランス譯が現はれた。その後アメリカで發表された英文の抄譯が少くとも二種あつて、しかもその一種はイギリスで再版された。また、第一のロシヤ譯はバクーニンの手になり、一八六二年頃、ジェネバなるヘルチェンの雜誌『コロコロ』の發行所から出版され、第二は女丈夫ウエラ・サスリッチの手になり、(2)一八八二年、同じくジェネバで出版された。また一八八五年、コペンハーゲン發行の『社會

民主主義文庫」の中に、一つの新しいデンマーク譯がある。一八八六年、パリの『社會主義者』にまた一つ新しいフランス譯が出た。そのフランス譯からしてスペイン譯がつくられ、一八八六年マドリッドで出版された。ドイツにおける飜刻は數へきれないほどで、少くとも十二種はあつた。アルメニヤ譯は數月前、コンスタンチノープルで出版されるはずであつたが、發行者はマルクスの名を冠した書籍を出すことを恐れ、譯者はまたそれを自分の著述とすることを拒んだので、たうとう世に出ることが出來なかつたといふ。以上のほか、更に他の國語に譯されたものもあると聞いてゐるが、私はまだ見たことがない。かくてこの『宣言』の歷史は、大體において、近世勞働運動の歷史を反映してゐる。そして今日においては、この『宣言』こそ疑ひもなく、あらゆる社會主義の文書中、最も廣く世に行はれた、最も國際的な產物であつて、シベリヤからカリフォルニヤまでの幾百萬の勞働者によつて承認された共通の綱領である。

（2） ウェラ・サスリッチ云々はエンゲルスの間違ひで、實はプレハーノフによつてロシヤ文に譯されたのである。

しかるにこの『宣言』の起草された時、我々はこれを『社會黨宣言』と呼ぶことが出來なかつた。一八四七年の當時では、社會主義者といへば、一方においては種々なる空想的諸制度の信者、すなはちイギリスのオーエン派、フランスのフーリエー派などを意味し、その兩派とも既に單なる『おかたまり』の地位に下り、次第に死滅に瀕してゐた。また一方において、社會主義者といふ名は種々雜多なエセ改良家を意味し、その連中はあらゆる切張りの術を設いで、資本と利潤とには何らの危害をも加へないで、よく社會一切の害惡を除去すると稱してゐた。そしてこの兩者とも、勞働階級以外の運動であつて、むしろいはゆる教育ある人士に向つてその支持を求めてゐた。これらの間に立つて、單純な政治革命の無力を悟り、社會の根本的變革の必要を宣言したものが、勞働階

級中のどれだけの部分であつたかは分らないが、その部分だけは自ら共產主義者と稱してゐた。それはもとより粗雜な、荒削りの、純然たる本能的共產主義ではあつたが、それでもその主張はよく急所に當つて、勞働階級の間に有力となり、フランスのカベー、ドイツのワイトリングのやうな、空想的共產主義を產出してゐた。そこで一八四七年においては、社會主義は中流階級の運動であり、共產主義は勞働階級の運動であつた。また少くとも大陸においては、社會主義は『品のよいもの』であり、共產主義は全くそれに反してゐた。そして我我の意見は最初から、『勞働階級の解放は、勞働階級自身の行動でなければならぬ』といふのであつたから、この二つの名稱のいづれを選ぶべきかについて、疑ひの起るはずがなかつた。それに我々は、その後といへども、かつてこの名を排斥したことはないのである。

この『宣言』は二人の合作であるけれども、その核子を形成する根本の提案

が、マルクスに屬することを明言する義務があると私は思ふ。すなはちその提案とは、歴史の各時代において、經濟上、生產および交換の慣行方式があり、また必然にそれから生じてくる社會組織があり、その時代の政治および文明の歴史はこの基礎の上に建設され、またこの基礎によつてのみ說明されるといふこと。故に人類の全歴史は（土地を共有してゐた原始的氏族社會が消滅した以後）階級鬪爭の歴史であり、搾取者と被搾取者、壓伏階級と被壓伏階級の對抗の歴史であること。そしてこれらの階級鬪爭の歴史が進化の諸段階を形成し、それが今日ではまた一つの新しい段階に到達し、この段階では、被搾取被壓伏の階級（すなはちプロレタリヤ）が、搾取壓伏の階級（すなはちブルジョア）の權勢から解放されようとするには、それと同時に、今後永久に一切の搾取、壓伏、階級差別、および階級鬪爭から、社會全體を解放するよりほかに道がないといふこと、である。

私の見るところでは、この提案は、ちやうどダーキンの進化說が生物學に與へたと同樣の效果を、史學のうへに與ふべきもので、マルクスと私と二人ともに、一八四五年以前において、漸次それに近づきつつあつたのである。最初、私がひとり、いかなる程度までそれに向つて進んでゐたかは、私の著『一八四四年における英國勞働階級の狀態』において、最もよく見ることが出來る。しかるに一八四五年の春、私が再びブリュッセルでマルクスと會つた時、彼は旣にそれを完成して、殆んど私が今ここに記してゐるやうな明晰な字句で、それを私に提示したのであつた。

私はここに、一八七二年のドイツ版に付した我々の合作の序文の中から、左の一節を引用する。

『最近二十五年間において、社會の狀態は大いに變化してゐるけれども、この「宣言」の中に開陳されてある根本の趣旨は、大體において今もなほ正確で

ある。細目には所々訂正すべき點もあるだらう。またこの趣旨の實際の適用は、「宣言」中にもいつてあるとほり、すべての處、すべての時において、その現存せる歷史的狀態によつて決せらるべきものであるから、第二章の終りに提出されてゐる革命的諸政策には、必ずしも重きをおくに足りない。あの一段は、多くの點において、今日ならばずつと違つた文句で書き現はされるであらう。一八四八年以後における近世產業の長足の進步、およびそれに伴つて進步し擴大した勞働階級の團結から見る時、また第一にはフランスの二月革命における實際の經驗、第二にはプロレタリヤが初めて二箇月間、政權を握つたパリ・コンミユンの一層よい經驗から見る時、この「宣言」中の綱領は、ある細目において既に廢物に歸してゐる。特にパリ・コンミユンによつて立證された一事がある。すなはち「勞働階級は單に出來合ひの國家機關を握つて、それを自分の目的に使用することは出來ない」(「フランスにおける內亂」を參照。そ

れにはこの點が一そう敷衍されてゐる）といふことである。またこの「宣言」の、社會主義文書に對する批評は、一八四七年以前に限られてゐるのだから、現時に關して多くの缺點があることは自明である。また共產主義者と種々の反對黨との關係についての評語（第四章）は、その趣旨はやはり正確であるけれども、實際の適用上には既に廢物になつてゐる。今では政治界の形勢が全く變化し、歷史の進步が、あそこに數へあげてある諸政黨の大部分を、地上から一掃してゐるからである。

しかしこの「宣言」は、今ではもう歷史的文書になつてゐるので、我々はもはやそれに變更を加へる權利がない。」

このイギリス譯は、マルクスの『資本論』の大部分を譯したサミュエル・ムーア氏の手になり、氏と私と一緒に校訂をなし、私は更に、歷史的用語を說明する二三の註釋をつけ加へた。

一八八八年一月三十日、ロンドンにて

フリードリヒ・エンゲルス

目次

共産黨宣言

堺利彦
幸徳秋水
共譯

一個の怪物がヨーロッパを徘徊してゐる。すなはち共産主義の怪物である。古いヨーロッパのあらゆる權力は、この怪物を退治するために、神聖同盟を結んでゐる。ローマ法皇もツアールも、メッテルニヒもギゾウも、フランスの急進黨もドイツの探偵も。

〔譯者註〕メッテルニヒはオーストリーの宰相、ギゾウはフランスの首相。

見よ。在野の政黨で、在朝の政敵から、共産主義的だといつて誹毀されないものがあるか。また見よ、在野の政黨で、他の一そう急進的な反對諸黨派に對

して、ならびにその保守的な政敵に對して、共產主義の燒印をつけた詰責を投げ返さないものがあるか。

この事實から二つのことがわかる。

共產主義はあらゆるヨーロッパの權力者から、既に一個の勢力として認識されてゐること。

共產主義者が全世界の面前にその見解、その目的、その傾向を公然と表示し、黨自身の宣言をもつて、共產主義の怪物のお伽噺と對抗すべき時機が熟してゐること。

この目的のために、諸國の共產主義者がロンドンに集まつて、次の宣言を起草した。そしてそれをイギリス語、フランス語、ドイツ語、イタリー語、フレミッシュ語、およびデンマーク語で公表することにした。

第一章　ブルジョアとプロレタリヤ(1)

在來一切の社會の歷史は、階級鬪爭の歷史である。(2)

自由民と奴隷、貴族と平民、領主と農奴、ギルド（同業組合）の親方(3)と徒弟職人、一言にすれば壓伏者と被壓伏者とが、古來常に相對立して、或ひは公然の、或ひは隱然の鬪爭を繼續してゐた。そしてその鬪爭はいつでも、社會全體の革命的改造に終るか、或ひは交戰せる兩階級の共仆れに終るのであつた。

（1）ブルジョアとは、近世資本家の階級、社會的生產の諸機關（あるひは諸手段）の所有者、および賃銀勞働の雇用者を意味する。プロレタリヤとは、自分で生產機關（あるひは生產手段）をもつてないので、生活のためには自分の勞働力を賣るほかはない近世賃銀勞働者を意味する。

〔譯者註〕ブルジョアは初め我々によつて「紳士」と譯され、ブルジョアジーは「紳士閥」と譯された。そして、プロレタリヤは初め「平民」あるひは「平民勞働者」と譯された。

(2) 精確にいへば、記録された歴史である。一八四七年には、有史以前に存在した社會組織は殆んど全く知られてゐなかつた。その後、ハクスタウゼンはロシヤにおける土地共有制を發見し、マウレルはすべてのチュートン人種が歴史に入るまへ、土地共有を社會の基礎としてゐたことを論證し、それから次第に、村落共産制がインドからアイルランドまで到る處において、社會の原始的形態であること、もしくはあつたことが分つて來た。そしてこの原始的共産社會の內部組織は、氏の眞性質、および氏と種族との關係についての、モルガンの完成的大發見によつて、初めて標本的の形態で明示された。この原始的共産制の解體とともに、社會はべつべつの、そして遂には相反目する諸階級に分れはじめたのである。

〔譯者註〕 モルガン著『古代社會』およびエンゲルス著『家族・私有財産および國家の起源』を見よ。

(3) ギルドの親方とは、正式の組合員たる職人のことで、組合の頭ではない。

上古の諸時代にあつては、殆んど到る處に、社會を種々な等級に分けた複雑な排列法、社會的地位の種々雑多な區分が行はれてゐるのを見る。すなはちローマの古代には、貴族、騎士、平民、奴隷があり、中世には、領主、家來、親

方、徒弟、農奴がある。そしてなほその諸階級の殆んどすべてに、またそれぞれの小區分がある。

封建社會の滅亡から發生した近世のブルジョア社會も、階級對立を除去してはゐない。ただ新しい階級をつくり、新しい壓伏條件をつくり、新しい闘爭形式をつくつて、昔のに代へただけである。

けれども、我々の時代、すなはちブルジョアの時代は、この階級對立を單純化したといふ特徴をもつてゐる。全社會は次第々々に、相敵視する二大陣營、直接相互に對立する二大階級に分裂しつつある。すなはちブルジョアとプロレタリヤである。

そもそも中世の農奴の中から、最初の都市における特許市民（あるひは廓外市民）が出て來てゐる。そしてその特許市民の中から、ブルジョアジーの最初の要素が發達してゐる。

アメリカの發見、喜望峰の廻航は、この新興のブルジョアのために新しい地盤をつくり出した。東インドおよび支那の市場、アメリカの植民、植民地との貿易、交換手段および商品の增加は、商業に、航海に、工業に、空前の刺戟を與へ、それによつて、既に崩壞しかけてゐた封建社會內の革命要素に急激な發達を起させた。

そこで從來の、封建的もしくはギルド的の工業經營法は、もはや新市場とともに增大するところの需要に應ずることが出來なくなつた。工場的手工業がそれに代つて起つて來た。ギルドの親方は工場手工業的中產階級のために押しのけられた。種々なる組合と組合との間の分業は、單一なる工場內の分業の前に消滅した。

しかるに市場はいよいよ擴大し、需要はいよいよ增加した。工場的手工業ももはやそれに應ずることが出來なくなつた。そこで蒸氣と大機械が工業生產を

革命した。工場的手工業の代りに近代的大産業が起り、工場手工業的中産階級の代りに産業的大富豪、全産業軍の首長、すなはち近代的ブルジョアが起つた。

この近代産業が世界市場を建設した。アメリカの發見は既にその準備をしてゐたのである。この世界市場は商業に、航海に、陸上の交通に、絶大の發達をなさしめ、その發達がまた、産業の擴大に逆影響を及ぼし、つまり工業、商業、航海、鐵道の擴大するその同じ度合ひにおいて、ブルジョアジーが發達し、その資本が增加し、中世から殘存してゐるすべての階級を後ろの方に押しやつてしまつた。

かくて我々は、近代的ブルジョアジーが、長い發達行程の產物であり、また、生産および交換方法におけるいくた連續せる諸變革の產物であることを知る。

このブルジョアジー發達の各段階は、またそれに相應する政治的進歩を伴つてゐた。すなはち初めは封建的領主の支配下に抑壓された一階級であり、また武裝した自治團體のコンミユン(4)であり、あるところでは（イタリーおよびドイツにおけるごとく）獨立の都市共和制となり、あるところでは（フランスにおけるごとく）王政治下の第三階級（租税負擔階級）となり、次に工場的手工業の時代にあつては、半封建的もしくは專制的王國内における貴族との均衡物となり、また一般大王國の主要なる地盤となり、最後には、大産業および世界市場の發現以後、近世的代議制國家において、全くその掌中に政權を把握した。近世國家の政府なるものは、ブルジョア階級全體のためにその共同事務を處理する委員會に過ぎない。

（4）イタリーおよびフランスの都市の住民は、その都市的共同組織をコンミユンと呼んでゐた。そしてそれによつて、封建領主から最初の自治權を買ひ取り、もしくは戰ち取つた。

コンミユンとは、フランスの都市がその發生時代からもつてゐる名稱で、彼らが第三階級として封建領主から、地方自治制と參政權とを獲得したその以前、既にこの名稱があつた。大體上ここでは、ブルジョアの經濟的發達にはイギリスを標本國とし、その政治的發達にはフランスを標本國としてゐる。

ブルジョアジーは歴史上において、最も革命的な任務を果したものである。

ブルジョアジーが政權を握つたところでは、すべての封建的、主從的、牧歌的なる諸關係が破壞された。(從來)人を、その生れながらの目上と結びつけてゐた封建的の色綵は、無殘に引きちぎられて、人と人とを結びつけるものは、ただ赤裸々の利益、冷酷な現金勘定よりほかには何ものもないことになつた。宗教的の熱情や、武士的の感激や、町家的の人情などいふ神聖な渇仰心は、氷のやうに冷たい主我的な打算の中に溺らされてしまつた。個々の人物の値打ちは交換價値の中に消え去り、永く確保された無數の特許的自由の代りに、ただ

一つの無茶な商業的自由が設定された。これを一言にすれば、ブルジョアジーは、宗教的および政治的の幻影をもつて覆はれた搾取の代りに、公然たる、恥知らずの、直接な露骨な搾取を設定したのである。

ブルジョアジーは、從來名譽と尊敬とを博してゐたすべての職業から、その後光を剝ぎ去つてしまつた。醫師も、法律家も、僧侶も、詩人も、學者も、みな彼らに雇はれる賃銀勞働者に變化されてしまつた。

ブルジョアジーは、家族關係からそのしほらしいセンチメンタルなヴェールを破り取つて、純然たる一個の金錢關係に引き戻してしまつた。

ブルジョアジーは、保守主義者がいたく感嘆してゐる、あの中世時代の蠻勇的行動が、懶惰を極めた安逸生活といかに似合ひの相棒であるかを明示した。それは實に初めて、人間の活動がどこまでのことをなしとげうるかを示したものである。すなはち實にエジプトのピラミットや、ローマの水道や、ゴチック

の堂塔にも優る大工事を起し、また昔の民族移住や十字軍を凌駕する大遠征を決行したものである。

ブルジョアジーは、生産機關を、從つて生産關係を、從つてまた一般の社會關係を、絶えず革命することなしには存在することが出來ない。これに反し、古い生産方法を何らの變化なく保存することが、前代におけるすべての工業階級の第一の生存條件である。故に、生産の絶えざる革命、あらゆる社會狀態の不斷の動搖、永久の不安と擾亂、それがすなはちブルジョア時代がすべての前代と異なる特徴である。すべての確立し凝固した諸關係は、それに伴ふ大切な舊說古傳とともに一掃せられ、すべての新式の事物も、それがまだ固定せぬ前に廢物となつてしまふ。堅牢なものは悉く氣化し、神聖なものは悉く褻瀆され、そして人間は遂に自分の生活狀態と、自分と同類との關係を、冷靜な目で見つめるよりほかはないことになる。

ブルジョアジーは、その生産物のために絶えず市場を擴大する必要があるので、地球表面の全部に追ひやられる。それは到る處に巣をつくり、到る處に住みつき、到る處に因緣を結ばねばならぬ。

ブルジョアジーは、世界市場の搾取によつて、各國各地の生産および消費にコスモポリタン的性質を附與した。産業の足のしたから國家的地盤を引き拔いて、保守主義者の大なる悲嘆を招いた。古來の國家的産業は既に破壞され、なほ日々破壞されつつある。そしてそれに代る新産業を輸入することは、すべての文明國にとつて生死の問題であり、またその新産業は、もはや內國の原料でなく、最も遠隔した諸地方からの原料に加工し、またその生産物は內國ばかりでなく、世界のあらゆる方面で消費される。昔の、內國産によつて充足された需要の代りに、今は最遠隔の國土の産物でなければ充足されない、新しい需要が生じてゐる。昔の、地方的國家的の自足と閉居との代りに、今は諸國民相互

の間における、各方面の交通、各方面の依頼が生じてゐる。そして精神的生産もやはりこの物質生産と同じである。個々の國民の精神的作物は、世界共通の所有となる。國民的の偏執と僻見とは、次第々々に不可能となる。そして多數の國民的、地方的の文學の間から、一個の世界的文學が起る。

ブルジョアジーは、すべての生産機關を急速に改善することによつて、また交通機關を絶えず進歩させることによつて、すべての國民を（野蠻國民をすらも）文明に引き入れる。彼らはその商品の廉價を重砲として、あらゆる支那の城壁をも陷破した。彼らはまたそれによつて、頑固に外人を憎惡する野蠻人をも降伏させた。すべての國民は、もし滅亡を欲しないならば、ブルジョアジーの生産方法を採用することを餘儀なくされる。いはゆる文明を自國に輸入すること、すなはち自らブルジョアとなることを餘儀なくされる。これを一言にすれば、ブルジョアジーは自分の影像に從つて世界をつくるものである。

ブルジョアジーは、地方を都會の支配下に屈せしめた。彼らは都會の人口を、農村に比べて著るしく増加させた。そして全人口の多大な部分を、農村生活の愚昧から奪ひ去つた。彼らは農村を都會に屈せしめたと同じく、野蠻國および半野蠻國を文明國に、農業國民をブルジョア國民に、東洋を西洋に從屬させた。

ブルジョアジーは、いよいよますます、生産機關（生産手段）の、財産の、および人口の散在を抑止した。人口は集團され、生産機關は集中され、そして財産は少數者の手に集積された。それの必然な結果は、政治上の中央集權であつた。べつべつの利害、法律、政府、税制をもつてゐた獨立の諸地方、殆んど單なる聯合に過ぎなかつた諸地方が、一個の國民、一個の政府、一個の法律、一個の全國的階級利益、一個の關税區域に押し堅められてしまつた。

ブルジョアジーは、僅かに百年ばかりの階級的支配の中に、過去一切の諸時

代を合したよりも、一そう多量な、一そう巨大な生産力をつくり出した。自然力の征服、大機械、工業および農業における化學の應用、汽船、鐵道、電信、全世界各地の開墾、河川航路の開鑿、呪文をもつて地下から呼び起したやうな全人口の增殖、――およそこれほどの生產力が社會的勞働の胎內に眠つてゐたとは、いかなる前時代にもかつてその徵候がなかつたではないか。

かくて我々は知る。ブルジョアジーの成長の基礎であつたところの、生產および交換機關は、既に封建社會のうちにつくられてゐたのである。この生產および交換機關の發達のある段階において、封建社會が生產し交換したその諸關係、すなはち農業および工業の封建的組織、これを一言にすれば、封建的財產關係が、既に發達した生產力と、もはや適合しないことになつたのである。彼らは生產を促進しないで、それを妨害することになつた。彼らはまさにいくたの邪魔物になつた。彼らは爆破されねばならないのであつた。そして爆破され

た。

彼らの代りに現はれたものは自由競爭であつた。それと同時に、それに適合する社會的および政治的の組織も起つて來た。ブルジョア階級の經濟的および、政治的支配も起つて來た。

これと同樣な運動がいま我々の眼前にも行はれてゐる。この偉大な生產および交換機關を呼び出したところの、ブルジョア的の生產および交換關係、すなはちブルジョア的の財產關係、すなはち近代のブルジョア社會は、恰かもあの魔術師が、呪文を唱へて地の底からさまざまの魔物を呼び出しながら、今は既にそれを制御する力を失つたのに似てゐる。この數十年來の工業および商業の歷史は、近代の生產力が、近代の生產關係に對し、ブルジョアジーとその支配との生存條件たる財產關係に對し、叛逆した歷史に過ぎない。その證據としては、かの商業恐慌が、一定の期間を隔ててその襲來を繰返し、その一回ごとに

ますます甚だしくブルジョア社會の存在を脅威してゐる事實を擧げれば足りる。この商業恐慌の際には、現存の生産物の大部分が定期的に破壞されるばかりでなく、その以前につくられた生産力の大部分もまた同じである。またこの恐慌に際しては、過去のあらゆる時代ならばいかにも不道理と思はれるはずの、一種の社會的流行病、すなはち生産過剩といふ流行病が發生する。そのとき、社會は突如として、一時的の野蠻狀態に返つたやうに見える。饑饉が起り、大破壞が起つて、社會一切の生活資料を杜絶したかのやうに見える。工業も商業も悉く破壞されたやうに見える。それは何故か。ほかでもない、社會があまり多くの文明、あまり多くの生活資料、あまり多くの工業、あまり多くの商業をもつたからである。社會の用を務むべき生産力は、もはやブルジョアの財産關係を促進させる役には立たない。否、かへつてその財産關係に對してあまりに有力となり、その財産關係のために妨害を蒙ることになる。そこで生産

力がその妨害を突破するたびごとに、ブルジョア社會の全部を無秩序に陷れ、ブルジョア財産の存在を危くするのである。ブルジョアの諸關係は、自分のつくり出した富を包容するのに、あまり狹隘になつて來たのである。しからばブルジョアジーは何によつてこの恐慌を切り拔けるか。一面には生産力の大額を强壓的に破壞し、一面には新市場を征服し、および舊市場の搾取を一そう根本的にやる。さうしてどうなるか。それはすなはち、一そう廣大な、一そう猛烈な恐慌を準備し、恐慌を防遏する手段方法を極度に減少することになる。

ブルジョアジーが封建制度を顚覆したその武器が、今はブルジョアジー自身に向けられてゐる。

ただしブルジョアジーは、自分を殺すべき武器を鑄造したばかりでなく、またその武器を使用すべき人物をつくりだした。すなはち近代の勞働者、プロレタリヤがそれである。

かくてブルジョアジー（すなはち資本）が發達すればするほど、その同じ比例をもつて、近代勞働者の階級（すなはちプロレタリヤ階級）が發達した。このプロレタリヤは、仕事を見つけた間だけ生活することが出來、またその勞働が資本を增大する間だけ仕事をもつことが出來る。彼らは自分の身を切賣りにするよりほかないもので、他のあらゆる商品と同じく一個の商品である。從つて競爭上の諸變化と、市場内の諸變動とに曝されるものである。

プロレタリヤの勞働は、機械使用の增大と分業とのために、全くその個人的性質を失ひ、從つてまた勞働者の興味を失つた。すなはちプロレタリヤは單なる機械の附屬物となり、その機械に對して彼の要求されるところは、ただ最も單純な、最も單調な、最も容易に習得される手業である。從つてその勞働者を產出する費用は、ただ僅かにその一身を維持し、およびその種を蕃殖させるに必要なだけの生活資料に制限される。しかるに商品の價格は、從つて勞働の價

格も、その生産費と等しいものである。そこで勞働の沒趣味が增加すればするほど、それと同じ程度において賃銀は減少する。それにまた、機械の使用と分業とが增大すればするほど、或ひは勞働時間の延長により、或ひは一定の時間內に要求される勞働の增加により、或ひはまた、機械の運轉力の增加等によ り、その同じ程度において勞働の總計が增大する。

近世產業は、族長的な親方の下にあつた小さな職場を、工業資本家の大工場に變更したものである。その工場に詰めこまれる勞働者の群は、軍隊的に編成されてゐる。彼らは產業軍の兵卒として、多數の士官、下士官などを有する完全な統御組織の下におかれてゐる。彼らはブルジョア階級、ブルジョア國家の奴隸であるばかりでなく、機械のために、監督者のために、殊にはその製造家たるブルジョア個人のために、日々刻々、奴隸として使役されてゐる。そしてその專制政治の目的が單に營利であることが明示されればされるほど、その賤

むべく、厭ふべく、悩むべきことが甚だしさを加へて來る。

手の勞働が熟練と力とを要することが少くなるに從つて、すなはち近世產業がいよいよ發達するに從つて、男子の勞働が女子と小兒の勞働にとつて代られる。性の差異と年齢の差異とは、勞働階級にとつては、もはや何らの社會的價値をもつてゐない。彼らはみな等しく勞働器具であつて、ただその年齢と性とにより、使用上に費用の多少を生ずるだけである。

勞働者が、既に製造家から搾取されて、その勞働賃銀を受取ると、今度はブルジョアジーの他の部分、すなはち家主、小賣商人、質屋などが彼に襲ひかかる。

從來の中產階級の下層、すなはち小さい工業者、小商人、および小金持、職人と農夫、すべてこれらの諸階級は漸次プロレタリヤに陷る。その原因の一半は、彼らの小資本が大企業の經營に引き足りないで、より大なる資本家との競爭に負けるからであり、また他の一半は、彼らの專門技術が新しい生產方法に

對して無效になるからである。かくてプロレタリヤは國民のあらゆる方面から徵募されてゐる。

プロレタリアートは種々な發達の段階を經過する。彼らのブルジョアジーに對する戰ひは、その存在とともに始まる。最初は個々の勞働者が、次には一工場内の勞働者が、次には一地方における一勞働部門の勞働者が、直接に彼らを搾取する個々のブルジョアに對して戰ふ。彼らはまだブルジョアの生產關係に對して攻擊を向けるのでなく、生產器具そのものに對して攻擊を向ける。すなはち彼らは外國の競爭品を破壞し、機械を叩きこはし、工場を燒き拂ふ。彼らは既に亡びた中世勞働者の地位を取り戾さうとする。

この段階にあつては、勞働者はまだ全國に散在して、競爭のために分裂してゐるところの集團である。當時、勞働者が多數團結の實を示した場合があるのは、それはまだ彼ら自身が結合したのではなく、ブルジョアジーの結合した結

果である。ブルジョアジーとしては、自分の政治上の目的を達するために、全プロレタリアートを動かす必要があり、そして、一時はそれをなしうるのである。故にこの段階にあつては、プロレタリヤは自分の敵と戰はないで、自分の敵の敵と戰ふ。すなはち專制王國の遺物、大地主、非工業的のブルジョア、小ブルジョアなどと戰ふ。かくて歷史的運動の全部はブルジョアの手に集中され、それによつて獲得されるすべての勝利は、ブルジョアの勝利である。

しかるに産業の發達とともに、プロレタリヤはその數を增加したばかりでなく、ますます大なる集團に押し堅められ、從つてその力が增大し、また彼らかその力を感知する。機械が次第々々に勞働の差異を消し、殆んど到る處において、賃銀を同一の低い水準に引下げると同時に、プロレタリヤの利害、プロレタリヤの內部における生活狀態が次第々々に平均して來る。ブルジョア同志の間におけるますます激烈な競爭、およびそれから生ずる商業恐慌が、いよいよ

勞働者の賃銀を動搖させる。不可避の勢ひをもつてますます急激に發達する機械の改善が、いよいよ勞働者の全生活を不安にする。個々の勞働者と個々の資本家との衝突が、次第々々に兩階級の衝突たる性質を餘計に帶びて來る。そこで勞働者は資本家に對して組合をつくりはじめる。彼らは勞働賃銀を維持するために結合する。彼らは臨機の反抗運動のために、かねてその資力を養ふべく、永續的の團體を組織する。それがをりをりは破裂して一揆となる。

勞働者はをりをり勝利を得るが、それはただ一時的に過ぎない。彼らの鬪爭の眞の效力は、その直接の結果にあるのではなく、ただ勞働者の團結が絕えず擴大するところにある。勞働者の團結は、大産業がつくり出した交通機關の發達によつて助長される。交通機關の發達は、諸地方の勞働者をして互ひに聯絡をとらしめる。ただこの聯絡のおかげで、到る處に同性質を有する無數の地方的鬪爭が、一個の全國的鬪爭、一個の階級鬪爭に集中される。そして階級鬪爭

は必ず政治的闘爭である。もしこれが、あの道路の不便な中世の町人であつたなら、かういふ團結のためには數百年を要したであらうに、鐵道のある近代のプロレタリヤは、僅々數年の間にそれを成就したのである。

プロレタリアートのかういふ階級的組織、從つてまたその政黨組織は、また絶えず勞働者自身の間の競爭のために破壞される。けれども、それは必ずまた勃興して、一そう強く、一そう堅く、一そう有力となる。彼らはブルジョアジーの間における黨爭を利用して、勞働者の特殊の利益に對する立法的認識を强要する。イギリスにおける十時間勞働法のごときがすなはちそれである。

舊社會における一般の諸衝突は、また種々の點においてプロレタリヤの發達を促す。ブルジョアジーは不斷の闘爭の中に立つてゐる。初めは貴族と戰ひ、後には産業の進歩と利害を異にする、ブルジョアジー自身の他の部分と戰ひ、また常にあらゆる外國のブルジョアジーと戰ふ。かういふいろいろの闘爭にお

いて、ブルジョアジーはプロレタリヤに訴へ、その助力を借る必要があるので、従つてプロレタリヤを政治運動に引きいれねばならぬことになる。故にブルジョアは自分の教育的要素、すなはち自分と戦ふべき武器をプロレタリヤに供給することになる。

また、前にいつたとほり、支配階級の一部分が、産業發達のために、集つてプロレタリヤに落ち込む。或ひは少くとも、その生活條件を脅威される。彼らがまた多量の教育的要素をプロレタリヤに附與する。

最後に、この階級闘争がいよいよ決戰の時期に近づく時には、支配階級の内部（すなはち舊社會全體の内部）における分解の過程が、すこぶる激烈大膽な性質を帶び、支配階級の一小部分は自らその所屬を脱して、革命階級（すなはち將來をその手の中に握つてゐる階級）に投ずる。故に、むかし貴族の一部分がブルジョアに投じたと同じやうに、今はブルジョアの一部、殊にこの歴史的

運動の全體を學理的に理解しうるに至つたところの、思想家的ブルジョアの一部が、プロレタリヤに投ずる。

今日、ブルジョアと對立してゐるすべての階級の中で、ただプロレタリヤのみが眞實の革命階級である。他の諸階級は大産業のために衰頽し、滅亡するものであるが、プロレタリヤはすなはち大産業に特有な産物である。

中産階級の下層たる、小製造家、小商人、職人、農夫等もまたみなブルジョアーと戰ふ。けれどもそれは、中産階級としての滅亡を免れんがために戰ふのである。故に彼らは革命的でなく、保守的である。いなむしろ彼らは反動的である。彼らは歷史の車輪を後ろにまはさうとするものである。もし彼らが革命的であるとすれば、それは彼らがプロレタリヤに落ちこみかけてゐることを悟つたからである。彼らは現在の地位を防衛するのではなく、將來の利益を防衞するのである。すなはち彼らはプロレタリヤの地位に立つために、自分の特

殊な地位を棄てるのである。

ルンペンプロレタリヤ、すなはち舊社會の最下層にある、腐敗墮落した貧民もまた、場合によつてプロレタリヤの革命運動に誘ひ込まれるだらう。けれども彼らの生活狀態から見ると、彼らはむしろ喜んで反動的陰謀のために買收されるだらう。

舊社會の生活條件は、今は既にプロレタリヤの生活條件の中に滅却されてゐる。プロレタリヤは無財産である。彼らがその妻子に對する關係は、もはやブルジョアの家族關係と少しの共通點をももつてゐない。近世的工業勞働、資本の下における近世的服從は、イギリスはフランスに同じく、アメリカはドイツに同じく、すべてプロレタリヤからその國民的特徴を剝ぎ去つてゐる。法律、道德、宗教、彼らにとつてはみな悉くブルジョア的偏見であつて、その背後には必ず、それだけのブルジョア的利益が隱されてゐるのである。

て、そして自分らの既得の地位を確保しようとした。しかるにプロレタリヤは、從來の自分の所得方法（從つてまた、從來一般の所得方法）を廢止して、初め社會的生産力を握ることが出來る。プロレタリヤは自分のものとして保護すべきものが一つもない。彼らはただ、あらゆる從來の、私有的保證、私有的保護を破壞すれば足りるのである。

從來のすべての運動は、みな少數者の運動、もしくは少數者の利益のためにする運動であつた。プロレタリヤの運動は、大多數の利益のためにする、その大多數の獨立の運動である。しかるに、現社會の最下層たるこのプロレタリヤは、外面の正式社會を構成してゐるところの、上層全部を空中に吹き飛ばさなくては、自立し自營することが出來ないのである。

プロレタリアートのブルジョアジーに對するこの鬪爭は、形式上（實質上は

さうでないが）、最初は一國的である。各國のプロレタリアートは、必ずまづ、自國のブルジョアジーを處分せねばならぬのである。

我々は今、プロレタリアートの發達について、その最も一般的なる諸段階を敍述し、現社會の内部における、大なり小なり覆面された内亂から、遂にそれが爆破して公然の革命となり、ブルジョアジーを顚覆してプロレタリアートの支配を樹立するところまで到達した。

從來のすべての社會は、前に述べたとほり、壓伏階級と被壓伏階級との敵對の上に立つてゐた。けれども、階級を壓伏するためには、その階級が少くとも奴隷的存在を續けうるだけの、ある生活條件が保證されてあらねばならぬ。農奴は農奴制の下において、その村邑の公民に立身することが出來たし、小町人はまた、封建的專制政治の抑壓のもとにあつて、ブルジョアにな　ことが出來た。しかるに近世の勞働者は、產業の進步とともに向上するのではなく、却つ

て自分の階級の生活條件より以下にだんだん深く沈んで行くのである。すなはち勞働者は貧民となり、貧民は人口と富との增加に比し、一そう急速に發達する。そこでブルジョアジーがなほ永く社會の支配階級となること、そしてその階級の生活條件を定法として社會に強ひることの不適當が明瞭となる。彼らが支配者たるに不適當な所以は、すなはちその奴隸制の內部において、奴隸に生存そのものをすら確保することが出來ないといふ點にある。また彼らが奴隸から養はれるのでなく、却つて奴隸を養はねばならぬほどの境遇に、奴隸を沈ませるのやむなきに至つた點にある。社會はもはやブルジョアジーの下に生活することが出來ない。換言すれば、ブルジョアジーの生活はもはや社會と兩立しえないのである。

ブルジョア階級の存在、およびその支配權の根本條件は、私人の手の中に富を集積することである、資本の形成および增大である。そして資本の條件は賃

銀勞働である。そして賃銀勞働は全く勞働者間の競爭の上に立つてゐる。しかるにブルジョアジーが無意識に、そして無抵抗に促進した産業の進歩は、競爭による勞働者の孤立を改めて、協力による彼らの革命的結合をつくる。だから大産業の發達は、ブルジョアジーが生産をなし、産出物を領有するその基礎自體を、ブルジョアジーの足の下から引き抜くものである。故にブルジョアジーが産出するものは、第一に自分の墓掘り人である。ブルジョアの沒落と、プロレタリヤの勝利とは、共に不可避である

第二章　プロレタリヤと共産主義者

共産主義者は一般のプロレタリヤに對して、どんな關係にあるか。

共産主義者は勞働者の諸黨派に反對して、別個の一黨派をつくるものではな

い。

彼らは全プロレタリヤ階級の利害から分離した、何らの利害をもつものではない。

彼らは特殊の原則を定めて、プロレタリヤの運動をその型に入れようとするものではない。

共産主義者が、プロレタリヤの他の諸黨派と異なるところは、ただこれである。すなはち、一面においては、プロレタリヤの種々なる一國的鬪爭に對して、その國籍から獨立した、全プロレタリヤ階級の共通利益を指示し、標榜する。そして他の一面においては、プロレタリヤとブルジョアジーとの鬪爭が經過する種々なる發展段階に對して、常に運動全體の利益を代表する。

故に共産主義者は、一面、實際上には、全世界の勞働諸黨派の中において、最も大膽な、いつでも全黨を推進させる一部分である。そして一面、理論上に

は、プロレタリヤ運動の條件、進路、およびその總結末に關し、プロレタリヤの他の大部分よりも、一そう明晰な洞察をもつてゐるものである。

共產主義者の直接の目的は、他のすべてのプロレタリヤ諸黨派のそれと同一である。すなはちプロレタリヤを一階級に結成すること、ブルジョアの支配權を顚覆すること、プロレタリヤの手に政權を握ること。

共產主義者の理論的根據は、決して某々社會改良家たちの發明し、もしくは發見した、理想や原理の上に存するものではない。

彼らはただ、現存せる階級鬪爭の實際的諸關係、すなはち我々の眼前に起りつつある歷史的運動の、一般的表現に過ぎない。從來の財產關係を廢絕することは、必ずしも共產主義者の特徵ではない。

あらゆる過去の財產關係は、絕えず歷史的の轉換を受け、また絕えず歷史的の變化を蒙つてゐる。

例へばフランス革命は、ブルジョア的財産の便宜のために、封建的財産を廢絶した。

故に共産主義の特徴とするところは、一般財産の廢絶ではなく、ただブルジョア財産の廢絶である。しかし近世ブルジョアの私有財産は、階級反目の上に立つ、少數者による多數者の搾取の上に立つところの、生産および生産物領有方法の、最後にしてかつ最も完全なる表現である。

この意味において、共産主義者はその理論を一言に約することが出來る。いはく、私有財産の廢絶。

世人は我々共産主義者を非難していふ。共産主義者は、人が自己の勞働によつて獲得したところの個人的財産を廢絶しようとする。すなはちあらゆる個人的の自由、活動、および獨立の根底たる財産を廢絶しようとする、と。

自己の勞働によつて、自己の獲得した、自己の儲けだした財産といふのか。

それはブルジョア財産の以前にあつた、職人の財產、農夫の財產のことをいふのか、それならば我々が廢絕するには及ばない。產業の發達が既にそれを廢絕し、なほ日々廢絕しつつある。

それとも彼らは、近世のブルジョア的私有財產のことをいふのか。

しかし、賃銀勞働（すなはちプロレタリヤの勞働）は勞働者のために財產をつくるのか。決してつくらない。それはただ資本をつくる。資本は賃銀勞働を、搾取する財產である。そしてそれが更に賃銀勞働をつくり、更にそれを搾取するといふ條件の下においてのみ、增大しうるところの財產である。現今の形態における財產は、資本と賃銀勞働との對立の中に生存してゐる。我々をしてこの對立の兩面を檢せしめよ。

資本家たることは、生產界において、單純なる個人的地位をもつばかりでなく、また一の社會的地位をもつことである。資本は協力的產物である。多數部

員の共同作業によつてのみ、いな、それを究極すれば、社會全員の共同作業によつてのみ働かされうるものである。

故に資本は決して個人的の力でなく、一つの社會力である。

故に資本が共有財産（すなはち社會全員の財産）に變更される場合、それは個人的財産が社會的財産に變更されるのではない。ただその財産の社會的特質が變更されるのである。すなはち財産の階級的性質が失はれるのである。

次に賃銀勞働を檢せしめよ。

賃銀勞働の平均價格は、勞働賃銀の最低である。すなはち、勞働者が勞働者としての生命を保つに必要なだけの生活資料の額である。故に賃銀勞働者が自分の勞働によつて獲得するところは、ただその赤貧の生活を再製するに足るだけのものである。我々は決して、この直接な生命の再製のためにする、勞働産物の個人的所得を廢絕しようとするのではない。すなはち他の勞働を支配すべ

き何らの餘剩を生じないところの、この所得を廢絶しようとするのではない。我々はただこの所得の悲慘な性質、すなはち勞働者が資本を增大するためにのみ生活し、支配階級の利益がそれを要求する間だけ生活しうるといふ、その悲慘な性質をなくしようとするのである。

ブルジョアの社會にあつては、生きた勞働者は、ただ、集積された勞働を增大する一つの手段になる。共産主義の社會にあつては、集積された勞働が、ただ勞働者の生活を擴大し、豐富にし、增進させる手段になる。

故にブルジョアの社會にあつては、過去が現在を支配し、共産主義の社會にあつては、現在が過去を支配する。ブルジョアの社會にあつては、資本は獨立的であり、個性的であるのに、生きた人間は從屬的であり、非個性的である。しかるにブルジョアジーは、かういふ諸關係の廢絶を目して、個性の廢絶！自由の廢絶！といふのである。しかし無理もない。これはいかにも、ブルジ

ョアの個性、ブルジョアの獨立、ブルジョアの自由の廢絶なのである。

現在のブルジョア的生産關係の下にあつては、自由とはただ自由貿易を意味し、自由賣買を意味してゐる。

しかし賣買といふことがなくなれば、自由賣買もなくなつてしまふ。一體、ブルジョアの自由賣買といふこと、およびその他一切の自由よばはりは、中世時代の制限された賣買、束縛された商人に對してこそ意義もあるが、共産主義が主張する賣買の廢絶、ブルジョア的生産關係の廢絶、およびブルジョアジーそのものの廢絶に對しては、何らの意義もないものである。

諸君は、我々が私有財産を廢絶しようといふのに驚いてゐる。しかし諸君のこの現在の社會において、人口の十分の九は既に私有財産を失つてゐるではないか。そしてそれが（少數者のために）存在してゐるのは、實にそれがその十分の九のために存在してゐないからではないか。故に諸君が我々を非難する、

その財産の廢絕といふのは、社會全員の大々多數の無財產を必要條件とする、その財產の廢絕なのである。

要するに諸君は、我々が諸君の財產を廢絕しようとするのを非難するのである。いかにも我々はそれを欲するのである。

諸君は、勞働がもはや資本に變ぜず、貨幣に變ぜず、地代に變ぜず、つまり獨占的社會力に變じえないことになるその瞬間から、すなはち個人的財產がもはや、ブルジョア的財產に變形しえないことになるその瞬間から、諸君は個性が廢絕されるといふのである。

故に諸君は白狀してゐるのである。諸君のいはゆる個性とは、ブルジョア以外の、ブルジョア的財產所有者以外の、何ものをも意味してゐないのである。そして、それらの個性はもとより廢絕すべきである。

共產主義は誰人に對しても、社會的產物を獲得する力を奪ふものではない。

ただその獲得によつて、他の勞働を屈服させる、その力を奪ふのである。

ある者は反對していふ。私有財産が廢絶されるなら、それとともに一切の活動が廢絶され、從つて一般的怠惰に陷るであらう、と。

もしさうとするなら、ブルジョア社會は疾くの昔、怠惰のために滅亡してゐるはずである。ブルジョア社會では、働く者は儲からないし、儲ける者は働かないではないか。だからこの反對論は結局、資本がなくなれば賃銀勞働がなくなるといふ、分りきつた重複語を、別の意味で使つたに過ぎない。

物質的產物に對する、共產主義的の獲得方法および生產方法に向けられたすべての攻擊は、更に精神的產物の獲得および生產にまで延長されてゐる。階級的財產の廢絶が、ブルジョアにとつて、生產そのものの廢絶であるのと同じく、階級的文化の廢絶は、彼らにとつて一般文化の廢絶と同意義である。

彼らがしかくその消滅を悲しんでゐる、その文化なるものは、大々多數の人

にとつては、たゞ機械として働くことの教育である。

しかし諸君が、自由、文化、權利等に關する諸君のブルジョア的見解を標準として、ブルジョア財產の廢絶を律しようとする間は、論爭は無益である。諸君の思想そのものは、ブルジョア的の生產關係および財產關係の產物である。それと同じく、諸君の權利もまた、諸君の階級的意志を法律としたものに過ぎない。そしてその意志の內容は、諸君の階級の物質的生活條件から生じたものに過ぎない。

諸君の利己的妄想——すなはち諸君の生產關係および財產關係は、生產の進步に從つて生滅する歷史的關係であるのに、それを永劫の自然法および道理法に轉變させる——その諸君の利己的妄想は、すべての滅亡した過去の支配階級が、みな諸君と同じくもつてゐたものである。諸君が古代の財產に對して理解したところ、また封建的財產に對して理解したところのものを、諸君はいま、

ブルジョア的財産に對しては理解しようとしないのである。

家族制の廢絶！　共産主義者のこの不名譽な提案に對しては、最急進派の人人よりも憤激する。

しかし、現在の家族制度、ブルジョアの家族制度はいかなる基礎の上に立つてゐるか。資本の上、私收入の上に立つてゐる。完全に發達したこの家族制度は、ただブルジョアジーの間にのみ存在してゐる。そしてプロレタリヤの强制的無家庭と、公娼制度とが、その補足物になつてゐる。

ブルジョアの家族制は、もとよりこの補足物の消失とともに消失する。そして兩者とも、資本の消失とともに消失する。

諸君はまた、子供に對する親の搾取を廢絶するものとして、我々を攻擊するか。我々は甘んじてその罪人たることを自認する。

しかし（と諸君はいふだらう）、家庭敎育を廢して社會敎育をそれに代へるの

は、最も神聖なる家族關係を廢絶するものである、と。

ところが、諸君の教育もやはり社會によつて決定されるのではないか。諸君が教育を施すその社會的諸關係によつて決定されるのではないか。學校などを通じて、直接間接に行はれる社會の干渉によつて決定されるのではないか。共産主義者は、教育に對する社會の影響を發明したのではない。彼らはただその影響の性質を變じて、教育をして支配階級の勢力から脱出させようとするのである。

家族制度や教育のことについて、また親子の間の神聖な關係などいふことについて、ブルジョアがこんないひわけをしてゐるとき、大産業の結果として、プロレタリヤの家族關係がだんだんに破壞され、その小兒たちが單純な商品と勞働器械とに變形されて行くのを見ると、我々は實に嘔吐を催すの感がある。

だつて君ら共産主義者は、婦人の共有を行はうとしてゐるのぢやないかと、

全ブルジョアジーが我々に向つて合唱的に絶叫する。

ブルジョアは自分の妻を單なる生産器具と考へてゐる。そして生産器具がみな共同に利用されると聞いたのだから、その共同利用の運命が、やはり婦人の上にも來るものとしか考へられないのは、無理もない話である。

共産主義者の目的とするところは、さういふ單なる生産器具としての婦人の地位を、廢絶しようとするにあるのだなどとは、彼らが思ひもそめないことである。

しかしなんにしろ、わがブルジョア諸君が、そのいはゆる共産主義者の婦人共有制に對して、道徳的義憤を發したことほど笑ふべきものはない。共産主義者は婦人共有制を創設する必要がない。それは疾くの昔から存在してゐるではないか。

わがブルジョア諸君は、公娼のことはしばらくいはぬとしても、プロレタリ

ャの妻や娘を勝手にして、それでもなほ滿足が出來ないで、更に自分らの妻を互ひに誘惑することを無上の快樂としてゐるではないか。

ブルジョアの結婚は、その實質上、まさに妻女共有制である。さすれば、彼らが共產主義者に對して加へうる攻擊は、僞善的に隱蔽されてゐる婦人共有制の代りに、公然たる正式の婦人共有制を設けようとするからいけない、といふのがせいぜいである。なほいふまでもないことだが、現今の生產關係を廢絶すれば、それとともに、その關係から生じた婦人共有制、すなはち公私の賣淫制度が、みな消滅するのである。

共產主義者は更に、祖國を廢絶し、國民性を廢するものとして攻擊されてゐる。

勞働者は祖國をもつてゐない。その人のもつてゐないものをその人から取ることは出來ない。プロレタリヤはまづ政權を握らねばならぬ、國民的の階級た

る地位に登らねばならぬ、自己を國民として結成せねばならぬ。であるから、その意味において、ブルジョアジーの意味とは全く違ふが、やはり國民的である。

國家間の差別、および人種間の反目は、ブルジョアジーの發達のために、通商の自由のために、世界市場のために、生産方法およびそれに相應する生活關係の同一化のために、もはやだんだん消滅しつつある。

プロレタリヤの政治は一そう多くそれを消滅させるであらう。少くとも文明諸國間だけの團結した行動が、プロレタリヤ解放の最大條件の一つである。

一個人が他個人を搾取することが止めば、それと同じ比例において、一國民が他國民を搾取することも止むであらう。一國の內部における階級對立がなくなれば、國と國との間の敵視もまたなくなるであらう。

宗敎的、哲學的、および一般理想的見地からの共產主義に對する攻擊は、大

して本氣に論究するだけの價値がない。

人間の生活上の諸關係とともに、その社會的諸關係とともに、その社會的生活とともに、その思想、觀念、および見解、一言にすれば、その自覺もまた變化するといふことを理解するのに、そんなに深い洞察力がいるだらうか。

古來、思想の歴史が示してゐるところのものは、精神的生産が物質的生産とともに變質するといふことより他かにないではないか。ある時代を支配する思想は、いつでもただその支配階級の思想であつた。

ある思想が全社會を革命したといふことがある。それはただ、舊社會の内部に、新社會の要素が發育したといふ事實、古い生活關係の解體とともに、古い思想の解體が同一の歩調をとつたといふ事實を指すに過ぎない。

上古の世界が滅亡に瀕したとき、古い諸宗教はみな、キリスト教に征服された。十八世紀に、キリスト教の思想が啓蒙思想（合理思想）に壓せられたと

き、封建社會は當時の革命的ブルジョアジーに致命戰をやつてゐた。良心の自由、および信仰の自由といふ思想は、ただ自由競爭の優勝を知識界について言明したに過ぎない。

『けれども』と誰かがいふだらう。『宗教的、道德的、哲學的、政治的、法律的の諸思想は、いかにも歷史發展の道程において變化したに相違ないが、宗教、道德、哲學、政治、法律は、常にその變化の間に殘存した。』

『それにまた、自由、正義などといふ、あらゆる社會狀態に共通する、永劫の眞理がある。しかるに共產主義は、その永劫の眞理を廢絕する。宗教、道德を改新するのではなく、全くそれを廢絕する。だから共產主義は、あらゆる過去の歷史發展と矛盾する。』

この難詰は一體どういふことに歸着するか。あらゆる過去の社會の歷史は、階級對立の中に發展してゐる。そしてその階級對立は、時代々々に從つてその

形態を異にしてゐる。

しかしその形態はいかにもあれ、社會の一部分が他部分を搾取するといふ一點は、すべての過去の諸時代に共通な事實である。從つて、すべての時代の社會的自覺（社會意識）が、その表現の多種多樣なるにかかはらず、ある共通の形式をもつて働くのは、當り前のことである。そしてその自覺形式は、階級對立の全き消滅とともに、初めて完全に解體すべきものである。

共產主義の革命は、傳來の財產關係に對する根本的の分離である、從つてその發展の過程において、傳來の思想と根本的に分離するのは、當り前である。

しかし、共產主義に對するブルジョアの非難は、もうこれで棄ておくことにしよう。

我々は既に以上において、勞働者革命の第一步が、プロレタリヤを支配階級の地位に上げることにあるを見た。すなはち、デモクラシーの戰勝にあるを見

た。

プロレタリヤはその政治的支配權を利用し、漸々にブルジョアから一切の資本を振ぢ取るであらう。一切の生産機關を國家の手に、すなはち支配階級として結成されたプロレタリヤの手に、集中するであらう。そして生産力の總量を出來うるかぎり急速に増大するであらう。

もちろん、最初は、財産權に對する、およびブルジョア的生産關係に對する、專制的侵害によらなければ、右のことは行はれえないであらう。從つてその方策は、經濟上、不徹底であり薄弱であるかに見える。しかしそれが運動の進行につれて、自然に元の埒外に跳り出でる。そしてそれが生産方法の全體を變革する手段として、避くへからざる方策となる。

もつともこの方策は、それぞれの國情に從つて、それぞれの差異を呈するであらう。

しかし最も進歩した諸國にあつては、左の諸方策が大抵一般に行使されうるであらう。

一、土地所有權の剝奪、および地代を國家の經費に充てること。

二、强度の累進所得稅。

三、相續權の廢止。

四、すべての移住民および叛逆者の財産の沒收。

五、國家の資本をもつて全然獨占的なる國立銀行をつくり、信用機關を國家の手に集中すること。

六、交通および運輸機關を國家の手に集中すること。

七、國有工場の增大、國有生産機關の增大、共同的設計による土地の開墾および改善。

八、すべての人に對して平等の勞働義務を課すること。産業軍隊を編成する

こと（殊に農業に對して）。

九、農業と工業との經營を結合すること。都會と地方との區別を漸々に廢すること。

十、すべての兒童の公共無料敎育。現今の形式における兒童の工場勞働の廢止。工業生産と敎育との結合等。

かくて、發達の進行につれ、階級的差別が消滅し、すべての生産が、總個人の協力（全國民の大組合）の手に集中されるならば、そのとき公的權力はその政治的性質を失ふ。元來、政治的權力なるものは、一階級が他階級を壓伏するための組織的强力である。プロレタリヤはブルジョアジーに對する戰鬪の必要上、自ら一階級を形成し、革命によつて自ら支配階級となり、そして支配階級として强制的に古い生産關係を廢絶するのであるが、その生産關係の廢絶とともに、階級對立の存在條件を廢絶し、階級全體を廢絶し、從つてまた、自らの

階級的支配權をも廢絕するのである。

かくていよいよ、古いブルジョア社會（およびその諸階級と階級對立と）の代りに、各人の自由な發達が衆人の自由な發達の條件となるやうな、協力社會が生ずるのである。

第三章　社會主義および共產主義文書

一　反動的社會主義

A　封建的社會主義

フランスおよびイギリスの貴族は、その歷史的地位からして、近世ブルジョア社會に反對する小冊子を書くべき任務を帶びてゐた。一八三〇年七月のフランス革命において、またイギリスの改革運動において、彼らは更にこの厭ふべ

き成上り者のために組み敷かれた。本氣な政治的闘爭はもはや問題にならなくなつた。彼らに殘されたものは、ただ文筆上の爭ひであつた しかし、その文筆の方面でも、ブルボン王朝復活時代（一八一四年から一八三〇年まで）の古い言葉ではとほらなくなつた。彼ら貴族が世間の同情を喚び起すためには、自分の利害關係を隱蔽して、ただ搾取されてゐる勞働階級の利害關係においてのみ、ブルジョアジーに對する訴狀をつくらねばならなかつた。かくて彼らは、新しい支配者を諷諭する歌を歌ひ、また多少とも不祥らしい豫言をその耳に囁いて、纔かに自ら腹いせをしてゐたのである。

封建的社會主義はかやうにして起つた。半ばは哀歌、半ばは皮肉、半ばは過去の餘音、半ばは將來の脅威、そして時には深酷痛烈な批判をもつて、ブルジョアジーの腸を刺すことがあつても、近世史の進路を理解する能力が全く缺けてゐたので、その效果は常にただ滑稽であつた。

彼らは民衆を自分らのうしろに集めるために、プロレタリヤの救恤袋を旗印として振りかざした。けれども民衆は、しばしばそのうしろに集まつたとき、彼らの背中に昔の封建的紋所を見つけだして、輕蔑の高笑ひを殘して逃げ去つた。

フランス勤王派の一部と、青年イングランド黨とは、この芝居の好適例である。

封建主義者は、自分たちの搾取がブルジョアの搾取とその趣を異にしてゐるといふが、それは彼らが今日とはまるで違つた、そして今日では時代おくれになつてゐる、事情と條件との下に、搾取をやつてゐたといふことを忘れてゐるのである。彼らの支配下には、近世のプロレタリヤは存在してゐなかつたといふが、それはやはり、近代のブルジョアジーが彼らの社會組織の必然の子孫だといふことを忘れてゐるのである。

それに彼らは、自分たちの批評の反動的性質を殆んど隱してゐない。彼らのブルジョアジーに對する主なる詰責は、ブルジョアジーの支配下には、社會の舊組織を全く引つくり返さうとする一階級が、發生しかけてゐるといふに歸着する。

彼らがブルジョアジーを責めるのは、それが一般のプロレタリヤをつくりだしたといふことよりも、むしろ革命的プロレタリヤをつくり出したといふことにある。

故に彼らは、政治上の實際においては、勞働階級に對する壓迫的立法に加擔し、また日常の生活においては、そのあらゆる立派な口上にも似ず、黃金の林檎を拾ひ集め、眞理や正義や名譽を、羊毛や砂糖やジャガ芋酒と交易することを辭しなかつた。

〔譯註〕この林檎のことは、主としてドイツを指したのである。ドイツでは、地方の貴族や鄕士

が、その領地の大部分を番頭役の者に耕作させて、自らその利益を收め、更にまた大規模の砂糖製造をやり、ジャガ芋酒の醸造をやつてゐた。イギリスの富裕な貴族は、まだそこまでのことはやらなかつたが、それでも、怪しげな株式會社の株券に名義を貸して地代の減少の埋め合せをすることを知つてゐた。

僧侶がいつでも、封建貴族と手を携へてゐたと同じく、僧侶的社會主義がまた、いつでも封建的社會主義に伴つてゐた。

キリスト教の禁慾主義に社會主義的色彩をつけるのは、何よりも容易なことである。キリスト教は私有財産に對し、結婚に對し、國家に對して、熱心に反對したではないか。キリスト教はそれらの代りに、慈善と乞食と、獨身主義と禁慾主義と、僧院生活と教會とを説教したではないか。キリスト教社會主義は貴族の憤怒を淨めるために、僧侶が注ぐ聖水である。

B　小ブルジョア社會主義

ブルジョアジーのために亡ぼされた者、近世のブルジョア社會の中にその生活條件を萎微凋落させられた者は、封建貴族階級ばかりではなかつた。中世の特許市民と小農階級とは近世ブルジョアジーの先驅であつたが、工商業の發達の遅れた國々では、これらの階級がやはりまだ、新興のブルジョアジーと並んで生きながらへてゐる。

近世的文明の發達してゐる國々では、一つの新しい小ブルジョア階級が形成されてゐる。それは、プロレタリヤ階級とブルジョア階級との間を彷徨してゐるもので、ブルジョア社會の補足的部分として、常に新しく發生してゐる。しかしその組成員たる個人は、絶えず競爭のためにプロレタリヤに突き落され、しかもそれが大産業の發達につれ、近世社會の獨立分子としては全く消滅に歸し、その代りに商工農業における勞働監督者、および番頭支配人を生ずる時節

が近づきつつある。

フランスのやうな、農民階級が人口の半ば以上を占めてゐる國々では、プロレタリヤに味方して、ブルジョアジーに反對する文人らが、小ブルジョア的およぴ小農的の標準でブルジョアジーを批評し、またその小ブルジョア的立場から勞働黨に加擔するのは、まことに自然のことであつた。かくて小ブルジョア社會主義が起つた。シスモンヂーはフランスばかりでなく、イギリスにおいても、この學派の巨頭であつた。

この社會主義は最も鋭利に、近世の生產關係における矛盾を解剖した。經濟學者の僞善虛飾を暴露した。また最も有力に、機械と分業との破壞作用、資本と土地との集中、生產過剩、恐慌、小資本家と小農との必然的滅亡、プロレタリヤの悲慘、生產界の無政府狀態、富の分配の驚くべき不權衡、諸國民間における必死の產業戰爭、舊習慣、舊家族關係、舊國民性の解體を論證した。

しかしこの社會主義は、その積極の目的においては、昔の生産交換方法とともに、昔の財産關係および昔の社會を復興しようとするか、さもなくば、近世の生産交換方法を、舊財産關係（近世の生産交換方法によつて刎れとばされたところの、また刎ねとばされねばならなかつたところの、その舊財産關係）の外殼の中に、無理に再び押しこまうとするのであつた。いづれにしても、これは反動的であり、また空想的であつた。

製造工業においては座の制度（ギルドの自治制）、農村においては族長制が、それが彼らの結論であつた。

この學派は、結局、あらゆる自己陶醉が、曲げがたき歴史的事實の前に雲消して、あはれ意氣地なく陰鬱したのである。

C　ドイツ社會主義または「眞正」社會主義

フランスの社會主義的および共産主義的文書は、支配階級たるブルジョアジ

ーの壓迫の下に起り、その支配權に對する戰鬪の文學的表現をなしてゐたのであるが、その文書がドイツに輸入されたのは、ちやうどドイツのブルジョアジーが、封建的專制政治に對して戰鬪を開始した時であつた。

ドイツの哲學者、自稱哲學者、および文藝家は熱心にこの文書を耽讀したが、ただ彼らは、その文書がフランスからドイツに移植された時、フランスの社會關係がそれとともに移植されなかつたといふことを忘れてゐた。そこでこのフランスの文書は、ドイツの社會關係に對して、全くその直接實際的の意義を失ひ、ただ單純な文學的の姿を示してゐた。從つてそれは、人間性の實現に關するのんきな學究的思辨となるよりほかはなかつた。かくて十八世紀のドイツの學者にとつては、フランス第一革命の要求は『實踐理性』の一般的要求といふだけの意義をもつたもので、革命的フランス・ブルジョアジーの意志表現も、彼らの眼中にはただ純粹の意志、正當の意志、眞の人間の意志の法則としての

み映じたのである。

そこでドイツの學者たちの仕事はただ、新しいフランス思想を、自分らの古い哲學的良心と調和させるか、或ひはむしろ、自分らの哲學的立場からフランス思想を取りいれようといふのであつた。

この結合はちやうど、飜譯によつて外國語を取りいれるのと、同じやり方で行はれた。

昔の僧侶どもが、古代異教國の典籍によつて、カトリックの諸聖僧の傳記をつくつたことは、人のよく知るところである。ドイツの學者は、俗界のフランス文書に對して、まさにその反對をやつたのである。彼らはフランスの原書に基づいて、自分らの哲學的駄辯を書いた。例へば、貨幣の作用に關するフランス批評に基づいて『人間性の離反』を書き、ブルジョア國家に關するフランス批評に基づいて『絶對普遍政治の廢止』を書いたりした。

かういふ哲學的用語をフランスの史的發達の上に當てはめることを、彼らは行爲の哲學、眞正社會主義、社會主義のドイツ科學、社會主義の哲學的基礎などと命名した。

フランスの社會主義文書および共産主義文書は、かやうにして明らかに去勢された。そしてそれらの文書がドイツ人の手の中で、一階級の他階級に對する鬪爭の意義を失つた時、ドイツ人はそれで『フランス的偏見』を去つたと思ひ、現實の要求でなく眞理の要求を代表したと思ひ、プロレタリヤの利益でなく人間性(すなはち一般人間)の利益を代表したと思つてゐた。しかるにその人間とは、どの階級にも屬せず、現實のものでもなく、たゞ哲學的空想の雲霧の中にのみ存するものであつた。

かやうに拙劣な兒戲を試み、賣藥的法螺を吹き立てたドイツ社會主義も、漸くにして漸くその衒學的な無邪氣さを失つた。

ドイツ、殊にプロシャのブルジョアジーが、封建貴族および專制王政に對する戰闘、すなはち自由主義運動が、次第に本物になつて來た。

これによつて、いはゆる『眞正社會主義』は、多年要望してゐた好機會をつかみえて、その政治運動に社會主義的要求を對立させ、自由主義に對し、代議政體に對し、ブルジョアの自由競爭に對し、ブルジョアの言論自由に對し、ブルジョアの立法に對し、ブルジョアの自由平等に對して、その傳統的呪詛を投げつけ、そして民衆に向つては、彼らがこのブルジョア運動のために、得るところは一つもなく、失ふところは一切のものであるべきことを說法した。ドイツ社會主義は、このとき、自分が受賣りをしてゐるところのそのフランス批評が、近世ブルジョア社會の存在を前提とし、およびそれに隨伴する物質的生活條件と、それに適應する政治組織とを前提とするものであることを、折よくも忘れてゐたのである。すなはちその前提を獲得することが、ドイツでいま漸く

問題となつてゐることを忘れてゐたのである。

故に、ドイツの專制政治およびそれに伴ふ僧官、教授、地方貴族、官僚などにとつては、この社會主義は、ブルジョアジーの來襲に對する、まことに恰好の案山子であつた。

恰かもこの時、ドイツの專制政府は勞働階級の動亂に對して、鞭撻と銃丸のにがい藥を與へた後であつたので、この社會主義は實に甘い口直しであつた。

この『眞正社會主義』は、かくドイツ政府のためにブルジョアジーと戰ふ武器となつたと同時に、また直接に、一つの反動的利益（すなはち特權市民階級の反動的利益）を代表してゐた。ドイツにおいては、十六世紀以來の遺物であつて、そしてその後たえず、種々の形で復活してゐる小ブルジョア階級が、現存社會狀態の特殊の基礎をつくつてゐるのであつた。

この階級を維持することは、すなはちドイツの現存社會狀態を維持する所以

であつた。しかるにブルジョアジーが産業的および政治的支配權を握れば、一方には資本の集中のために、一方には革命的プロレタリヤの發生のために、この階級が確かに沒落する恐れがあつた。そこで『眞正社會主義』は、彼らにとつて一石二鳥を仆すもののごとく見えた。從つてそれが流行病のやうに蔓延した。

更にこのドイツ社會主義は、空想の蜘蛛の網で織られ、修辭の花で縁を取られ、濃やかな感情の露に浸された、浮世ばなれのした衣の中に、その哀れげな『永久の眞理』を包んだので、右の人々の間におけるこの商品の賣れ行きは、いよいよ盛んなものになつた。

かくてドイツ社會主義は、次第々々に、この特許市民階級の立派な代表者として、自己の使命を認識した。

彼らはドイツ國民をもつて模範的國民となし、ドイツの小市民をもつて模範

的人間となることを宣言した。そしてその模範的人間の醜行に對して、その眞相に正反對なる、隱微な、崇高な、社會主義的意義を附與した。要するに彼らの主張は、直接に、共產主義の『殘虐な破壞性』に反對し、一切の階級鬪爭に超越して不偏不黨の態度を宣明するにあつた。今ドイツに行はれてゐる、いはゆる社會主義文書および共產主義文書は、ごく少數の例外はあるが、みなこの醜穢な汁拔きの著作部類に屬してゐる。

原註　一八四八年の革命騷ぎは、すべてこの見苦しい傾向を掃ひ去り、その唱道者から、引續き社會主義者として立つほどの趣味を奪ひ去つた。この傾向の主たる代表者であり、またその標準のタイプたる人は、カルル・グリューン氏である。

二　保守的社會主義またはブルジョア社會主義

ブルジョアジーの一部分は、ブルジョア社會の永續を計るために、社會の病

所を匡正することを希望する。
經濟學者、博愛家、人道家、勞働階級の狀態改善者、慈善事業者、動物虐待防止會員、禁酒會員、その他種々雜多の小改良主義者は、みなこれに屬してゐる。そしてこのブルジョア社會主義が、また一個の學說につくりあげられた。
それの一例として、プルードンの『貧困の哲學』を擧げることが出來る。
この社會主義的ブルジョアは、近世社會の生活條件を欲しながら、その必然の發生物たる闘爭と危險とを免れたいのである。彼らの欲するところは、革命的ならびに解體的要素を引去つた現存社會である。彼らはプロレタリヤのないブルジョアジーを希望してゐる。彼らはもとより、自分の支配してゐる世界を最良の世界だとしてゐる。ブルジョア社會主義者はこのおめでたい考へを、一つの（または半分の）學說につくりあげ、彼らはプロレタリヤに對し、その學說を實現して、新しいエルサレムに到達せよと勸めてゐるのだが、それは實質

上、現在の社會に立ち止まりながら、その現在の社會に關する忌はしい思想を取去れと要求するものに過ぎない。

この社會主義の、一そう非學理的な、しかし一そう實際的な第二形式は、勞働階級の利益が政治的變化の中に存せず、ただ物質的生活關係、すなはち經濟關係の變化の中にのみ存することを論證して、それによつて勞働階級にあらゆる革命運動を嫌はせようとするのである。しかし、この社會主義かいふところの物質的生活關係の變化とは、決してブルジョア的生産關係の廢絶を意味するのではない。その關係の廢絶は、革命によつてのみなしとげられるものであるから、彼らはただ、その生産關係の地盤の上に行はれる行政上の改善を意味するのである。從つてそれはまた、資本と賃銀勞働との關係に何らの變化を與へるものでなく、たかだかブルジョアジーをして、その支配費用を節減せしめ、その國家財政を單純化せしめるに過ぎない。

故にブルジョア社會主義者は、單純な修辭的形式においてのみ、初めて自分にふさはしい表現に到達する。

勞働階級の利益のための自由貿易！　勞働階級の利益のための保護貿易！勞働階級の利益のための監獄改良！　これがブルジョア社會主義の、最後の言葉であり、ただ一つ眞面目に考へられた言葉である。

要するに、ブルジョアの社會主義はただ、勞働階級の利益のためにブルジョアがブルジョアであるといふ主張に基づいてゐる。

三　批評的・空想的の社會主義および共產主義

我々がここで述べようとするのは、あらゆる近代の大革命に際して、プロレタリヤの要求を發言した（例へば、バブーフの著書などのやうな）文書についてではない。

〔譯者注〕 バブーフはフランス大革命の際、一種の共產主義を唱へた人。

一般的動亂の時代、封建社會崩壞の時代において、プロレタリヤが直接に、自分の階級的利益を樹立しようとした第一の試みは、プロレタリヤ自身の發達が幼稚であつたと、彼らを解放すべき物質的條件の缺乏のためとによつて、必然的に失敗した。もともと彼らを解放すべき物質的條件は、ブルジョア時代の產物なのである。そこでこの最初のプロレタリヤ運動に伴つた革命的文書は、その內容からいへば必然に反動的である。すなはちその敎へるところは一般的の禁慾主義であり、また素朴な平均主義である。

眞の社會主義および共產主義學說、すなはちサン・シモン、フーリエー、オーエンらの學說が、プロレタリヤとブルジョアとの鬪爭がまだ十分發達しない初期の時代に現はれたことは、前に說いたとほりである。（「ブルジョアとプロレタリヤ」の章參照）。

もつとも、これらの學説の發明者たちも、階級の對立と、ブルジョア社會そのものの中における解體的要素の作用とを看取した。ただ彼らは、プロレタリヤの方面において、何らの歴史的獨立性を認めず、彼らに特殊なる何らの政治運動を認めなかつた

階級對立の發達は、産業の發達とその歩調を同じくするものであるから、彼らはまだ、幾許もプロレタリヤ解放の物質的條件を見出すことが出來ないで、ただ何らかの社會的の學問により、社會的の法則によつて、その條件をつくらうと試みた。

そこで、社會的の活動の代りに、彼らの思ひつきによる個人的活動が起り、解放の歴史的條件の代りに、空想的條件が起り、プロレタリヤを一階級として、自然に、追々と團結させることの代りに、銘々のつくりあげた社會組織の考案が起つた。彼らにとつては、將來の世界歴史も、彼らの社會組織案の宣傳

と實行とに歸着すべきものであつた。

たゞし彼らは、その組織案が、社會の最も痛ましい階級たる、勞働階級の利益を代表することをさとつてゐた。プロレタリヤはただ、最も痛ましい階級といふ意味で彼らの目に映じてゐた。

けれども、階級鬪爭の未發達な形式と、彼ら自身の生活上の地位とのため、彼らは自然に、階級對立の上に超然たるものだと信じてゐた。彼らはすべての社會構成員のために、その最もよき地位にをる者のためにすらも、その生活狀態を改善しようとした。從つて彼らは不斷に、無差別に、社會全體に對し、いや、寧ろ支配階級に對して訴へた。人がいやしくも彼らの學說を理解する以上、最上可能の社會に對する最上可能の考案として、それを認めないはずがないといふのであつた。

故に彼らは、すべての政治的、殊にすべての革命的行動を排斥した。彼らは

平和の方法によつてその目的を達しようとした。そして小さな（自然、失敗に歸すべき）實驗によつて模範を世に示し、その力によつて新しい社會的福音の道に進まうとした。

この將來社會の空想的描寫は、プロレタリヤ階級の發達がまだ極めて幼稚であり、從つて自分の地位をもただ空想的に考へる時代において、社會の一般的改造に對するその最初の豫感的渇仰から生じたものである。

しかし、この社會主義および共產主義文書は批評的要素をも含んでゐる。彼らは現社會の一切の根本を攻擊した。故に彼らは、勞働者の啓蒙のために最も價値ある材料を供給した。將來の社會に對する彼らの積極的提案、例へば、都會と農村との對立の廢止、家族制の廢止、私的營利事業の廢止、賃銀勞働の廢止、社會調和の宣傳、國家を變じて單純なる生產管理機關となすこと、すべてこれらの提案は、全く階級對立の消滅に歸着するものである。しかし當時にあ

つては、その階級對立が漸く僅かに發達しかけてゐたので、彼らはまだその初期の漠然たる、不確定の姿においてのみ、それを知つてゐたのであり、從つて右の諸提案そのものも純然たる空想的意義をもつてゐた。

この批評的空想的社會主義および共産主義は、歴史的發展と逆行する意義を有してゐる。階級鬪爭が發達し成形するに從つて、階級鬪爭に對するこの空想的な超越と、この空想的な攻撃とは、一切の實際的價値、一切の學理的妥當を失ふ。そこでこの學派の創設者らは、多くの點において革命的であつたけれども、その門弟らはみな反動的分派をつくつてゐる。彼らはプロレタリヤの歴史的發展に反對して、その師の舊説を固守してゐる。從つて彼らはひつきやう、階級鬪爭を鈍らし、階級對立を調停しようとする。彼らは今でもやはり、自分らの社會的ユートピアの試驗的實現を夢み、個々のファランステール(1)を起すこと、『内國植民地』(2)を設けること、『小イカリヤ村』(3)をつくること、などいふ、

新エルサレムの小型發行を試み、そしてそれらの空中樓閣を築くためには、ブルジョアジーの慈善心と財嚢とに哀訴せざるを得ない。かくて彼らは次第々々に、上記の反動的、もしくは保守的社會主義の範疇に陥り、ただそれと異なるところは、やや組織的の學理を衒ふことと、その社會科學の奇蹟的效果に對する熱狂的迷信をもつこととである。

(1) ファランステールとは、フーリエーの考案になる社會的宮殿の名稱。
(2) 内國植民地とは、オーエンの共產主義的模範社會の名稱。
(3) イカリヤ村とは、カベーが描き出した共產主義的理想郷の名稱。

故に彼らは、勞働階級が一切の政治的運動をなすことに極力反對する。彼らによれば、政治運動はただ、新福音に對する盲目的不信からのみ生ずるのである。

イギリスのオーエン派がチャーチストに反對し、フランスのフーリエー派が

改良黨に反對するのは、すなはちこの故である。

第四章　在野諸政黨に對する共産黨の地位

既成の勞働諸黨派に對する共産黨の關係、從つてイギリスのチャーチスト、およびアメリカの農民改革黨などに對する關係は、第二章の說述で自然に明瞭となつてゐる。

共産黨は、勞働階級の直接眼前の目的と利益とのために戰ふものであるが、しかしその現在の運動の中において、またその運動の將來を代表するものである。フランスにおいては、共産黨は社會民主黨(1)と提携して、保守黨および急進ブルジョア黨と戰ふ。ただし、大革命から傳來した種々の謬見謬想に對しては、批評の權利を保留してゐる。

（1） この黨派は、議會においてはルドリュ・ロランによつて、文學においてはルイ・ブランによつて、日刊新聞においてはレフォルムによつて代表され、多少社會主義の色彩を帶びた、民主黨もしくは共和黨の一部であつた。

スキスにおいては、彼らは急進黨を助ける。ただし同黨が二個の反對せる要素、すなはち一はフランス流の民主的社會主義者、一は急進的ブルジョアジーからなることを見逃してはゐない。

ポーランドにおいては、彼らは、農業革命をもつて國民的解放の主要條件とする黨派を助けてゐる。この黨派は一八四六年、クラカウ一揆を起させたことがある。

ドイツにおいては、彼らは、ブルジョアジーが革命的に行動する時、それと提携して專制王政、封建的地主、および小ブルジョアと戰ふ。

しかし彼らは、未だかつて一刻たりとも、ブルジョアジーとプロレタリアー

トとが敵對してゐるといふ、出來うるかぎり明瞭な自覺を勞働者に起させることを忘れてゐない。ブルジョアジーの支配とともに必ず採用されるはずの、その社會的および政治的條件を、ドイツの勞働者が、直ちに自分の武器としてブルジョアジーに向けうるために。またドイツ反動諸階級の沒落の後、直ちにブルジョアジー自身に對して戰鬪を開始するために。

共產黨は主としてドイツに向つてその注意を集中する。ドイツは今、ブルジョア革命の前夜にあり、そしてまたその革命が、ヨーロッパ文明國一般の進步した條件の下に行はれ、なほまた、十七世紀のイギリス、十八世紀のフランスよりも、遙かに高く發達したプロレタリヤを有し、從つて、ドイツのブルジョア革命は、まさにプロレタリヤ革命の直接の前幕となりうるからである。

要するに、共產黨は、到る處において、社會的および政治的の現狀に反抗する各種の革命運動を擁護する。

すべてこれらの運動において、共產黨は常に財產問題を標榜してゐる。その財產問題の發達程度がどうであらうとも、彼らは常にそれを運動の根本としてゐる。

最後に、共產黨は到る處において、萬國の民主的諸黨派の團結と一致とのために努力する。

共產黨は、その主義政見を隱蔽することを恥とする。彼らは公然として宣言する。彼らの目的は、一切從來の社會組織を强力的に顚覆することによつてのみ達せられる。支配階級をして共產主義革命の前に戰慄せしめよ。プロレタリヤは、自分の鎖よりほかに失ふべき何ものももたない。そして彼らは、獲得すべき全世界をもつてゐる。

萬國のプロレタリヤ團結せよ！

——完——

改正定價金拾圓

昭和二十年十二月二十日初版發行
昭和二十一年三月十五日再版發行
昭和二十一年十一月二十日改訂版印刷
昭和二十一年十一月廿五日改訂版發行

譯者　堺　利彦
　　　幸德秋水

發行者　藤岡淳吉
東京都神田區猿樂町二丁目十番地

印刷者　岩本米次郎
東京都神田區小川町一丁目十一番地

配給元　日本出版配給株式會社
東京都神田區淡路町二丁目九番地

發行所　東京都神田區駿河台二ノ一　株式會社　彰考書院
會員番號A一一九〇二一
電話神田(25)二七五七番
振替口座東京八二一五五番

お斷り　本書の定價が戰前の出版物に比し餘りにも高いことは刊行者の深く遺憾とするところであるが、現下の生産コストをもつてしては殘念ながら止むを得ない。この點悪しからず御諒承を乞ふ。

雲光堂印刷製本株式會社印刷